



四天王剽次四異錄

前編

三

13
974
0





八世 13  
974  
子

源家 四天王剽盜異録卷之三  
勲績

東都

飯台 曲亭主人著  
門人 魁蕃 癡叟 校

第五綴

白浪坂より六郎二蘭子公養子談

附 弥次幼少を竊疾ある事

那女川の六郎二道魔法師が奇術小威をたぐ。且、邪念を執りて  
つども、却て、折りて、ちまきべり、掠り、金の掃き、ころり、すは、派

よるこび、遂ま、ん、かりて、生涯の計を、か、さ、た、や、と、あ、ひ、つ、ま、この地方、高貴  
のた、ら、ら、ら、び、さ、く、四里、あ、ま、り、西、あ、る、白浪坂、と、い、る、地、小、花、尾、と、い、る、小、池、  
掛、つ、る、一、個、の、酒、肆、と、い、つ、る、小、厨、二、三、人、と、い、つ、る、時、の、見、取、ひ、め、ん、と、い、つ、る、  
あ、ま、り、か、ら、る、山、里、と、い、つ、る、ま、り、高、と、い、つ、る、め、じ、と、い、つ、る、曾、子、と、い、つ、る、勝、母、小、車、と、い、つ、る、

剽盜異録 卷之三

三編通  
山博  
本助  
助南

明  
和  
三



その名を憎むなり。今六郎二のころもまふる浪とよぶ里小  
 来り住ぬる。中づら身は隠隠表とるのころは終ふの家より  
 怪有の盗賊生むる前象とぞとれり。かゝるものぞも昔は  
 した物おぼゆる師走の月も明結る方。これ商人のいそがしきなひまで  
 年の納まれ營々小緩き日わいなるも。既おられぬまの戸道とわ  
 ころふころはる稚子か容負る一個の女。六郎二が門をくち敲て  
 十二根村の親人の袴ゆれたるが。酒あふ芳醜二好むらうだ。こゝろを  
 とも彼処まぐ推しとぞといふ。小所ころえ。既の酒と酒器ふらり  
 入る。去来前よあゆむ。業門一のふといへば。女子のころより浅ら  
 出く償償ひ。小所と將く彼村ふらう。隣境小今二三町を  
 あり。女子小所公え。ころ。ころかや家。このあつらう。賞一が。

この春只一度おののころ。はる夜の道なれば。定うおもさる。こゝろ  
 まぐ彼処おれり。身まべられ。この児も小此小待とひひ。稚子小所小  
 抱せ。何やん肥色とら。これとも領り。こゝろ。何地  
 へもゆたひひきなど。懇切小のこおれ。忙し走り去ぬ。小所稚子とわふ  
 道は。まき。女のころ。まふ。待。こゝろ。音づも。わ。山風吹。こ  
 まれ。寒堪。鬼も。い。泣。わ。日。方。暮。ひ  
 つ。彼。尋。れ。れ。人。逢。む。む。れ。れ。近。門  
 か。ま。ま。ま。家。毎。回。む。遠。小。尋。あ。れ。今  
 せん。空。酒。稚。子。か。携。う。ら。物。り。ま。れ  
 六郎二。聞。訖。声。し。此。西。徑。も。あ。り。の。こ  
 鳥夜。し。ら。遣。る。あ。る。る。領。り。同。貫。め。

川谷集録

第五回

一







榎木諫夫  
養闌子圖

新盜異録

卷之三





村小の顔と。うんやううんやう。夫はさやううん。この子は相貌づから小て  
 見ざるやうにおほい。ちりちりぬきういふ。六郎もふつた。火光も熟打まで  
 當りぬ。この子皆の黒癩小見地をえあり。これなら那女川あはし時。  
 宿せし婦人の見り。それをさし捨てた。彼婦人まで近た里小あるまじ。  
 もも家とちりちり持ち。捨てる。彼天狗も。假小  
 女と妖連来ぬ。あぬこまぐあひまぐら。どのれ勢ひ頓。脱。只  
 忙然として居り。その夜人定う。後榎本又夫小い。今  
 うた世の因果物。うらうらと。外夏よの聞。今この今  
 身小あひちれ。御小は身が旅の婦人を殺さんと志す。彼  
 婦人もさう。賞らぬ。も吾儕が昔もあぬ。あつ移り住め  
 うらちら。この子を捨て。口をぬき人の家。見ほのひん。

うらちら。この子を捨て。因果の理。覚え人  
 あり。世に。彼百金の餘光あり。この子の賜。なつ家  
 嗣せらる。涙を滅す。対小互。女見深雪。六郎二も  
 夫婦。ちり。只管。六郎二も  
 向小死。遂小妻の諫。養育  
 せ。榎本。榎本  
 所。乳。弥成。又弥成と喚下。そ  
 ち。弥成と。生。榎本  
 あ。慈。六郎二。打罵。ぬ  
 弥成七女。年隣。荒田村の郷士。荒田。某  
 富る人の家。遊。山海の珍味。

辨正異録

卷之三

四

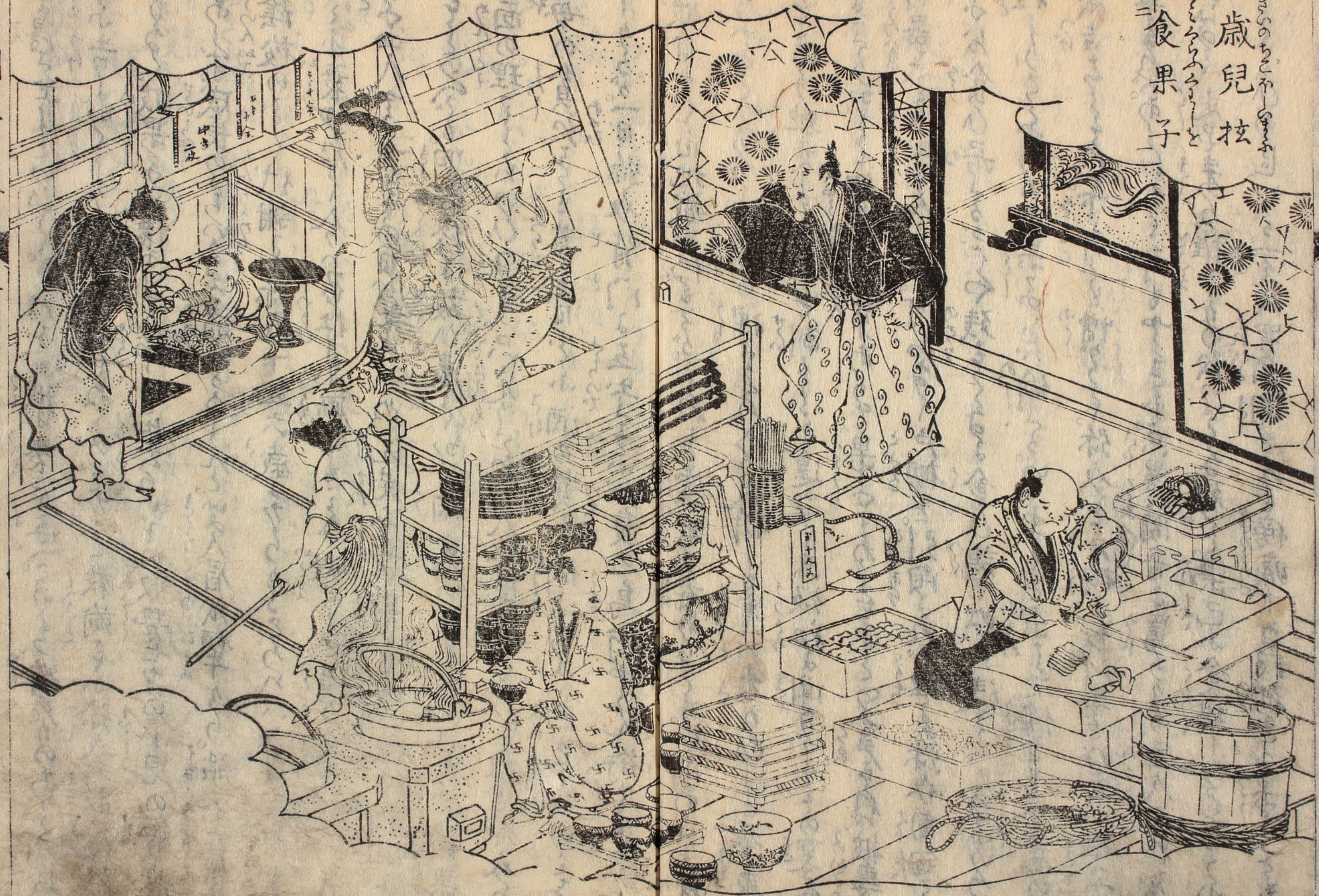


さら集めし中、小田舎の絶く見せぬ花のしらけの形、  
 美しう彩色し、乾菓子と。のりりるる、器に盛るる。この家乃  
 専小推子を愛するあり。今弥次が彼菓子とばし、けりるる。又さ  
 のの山里に住する人々。ある夏、かうとよる。おれしもほとく、りちり  
 里小藏入る。ぬ弥次、世おもれ。押戴り、走り出る。家まじも  
 掃着ど。道とぐる。食ひ、喝しつふ。その時、ふもいり、さるる。おれは  
 へ思ひ、あが。今、専が二つ、四つ、せも。私、夏と見ぬ。りのと。い、このふ  
 あり、このと。このむ、このひ、この時、この盗、この  
 超り、この計と半。再び、この家、小走り、ゆたて、あり、このふ。

今、彼首、向地、藏、ゆき、これを、索、来、者、あり、このふ、あり、この  
 告、あり、このひ、戸、棚、の、裡、よ、れ、入、り、ぬ、折、も、實、の、来、ひ、この、奉、家  
 う、この、あり、馳、走、して、これ、を、制、する、違、う、只、飯、初、は、聞、き、その、家、  
 ち、この、あり、この、饗、應、次、第、あり、て、果、子、の、ま、わ、り、せ、よ、この、ま、を、れ、彼、専  
 前、の、器、を、とり、出、さん、と、何、ん、さ、戸、棚、を、引、開、れ、裡、に、弥、次、匍、匍、  
 菓子、を、食、ひ、居、る、と、や、残、り、る、ま、食、ひ、謁、ぬ、この、浅、し、この、ふ、り、  
 の、程、し、ら、ふ、あり、て、菓子、と、偷、る、の、お、せ、ん、と、果、子、を、傳、る、ま、人、ま、この  
 夏、次、告、る、ま、れ、下、郎、も、憎、ら、う、弥、次、を、戸、棚、より、引、出、ぬ、と、稚、子  
 の、事、を、れ、あ、り、け、り、す、打、も、や、ま、い、ど、異、は、同、音、を、罵、り、り、り、主人、られ、  
 り、ん、は、ま、く、走、り、来、り、稚、子、の、お、の、り、る、答、を、渠、已、お、食、喝、め、る、と、い、ふ  
 責、る、ま、ひ、あ、じ、か、り、夏、次、實、不、聞、せん、も、傍、痛、し、ま、は、お、ま、る、果、子、を、



七歳兒 抜  
偷食果子  
圖





渠は得させしむのひく。それを紙に巻く手へ。このうち欲死のあはれ。只  
 明くふきよ。かくしうめ。いふせ。あはれ。か。と教諭。ふ。弥次。の。敢。羞。於  
 の。の。の。彼。果。子。の。懐。か。し。悠。々。と。出。去。ら。ぬ。の。形。勢。七。丈。の。小。兒。の。智。惠  
 の。あ。ら。ず。成。長。の。ち。の。ち。の。者。よ。う。う。ん。と。は。人。眉。の。鬚。々。々。詰。不。在。下。  
 光。陰。校。の。い。く。代。謝。く。弥。次。十。五。六。歳。か。ら。り。う。う。の。六。郎。二。が。世。業  
 年。々。小。衰。ゆ。た。々。今。の。召。件。小。厮。あ。も。も。暇。さ。せ。僅。う。酒。の。小。商。を  
 親。子。四。人。や。や。その。日。次。を。う。め。元。是。正。の。賊。と。り。一。旦。の。利。潤。を  
 う。う。と。い。ふ。も。旧。悪。終。に。報。ひ。来。り。か。困。窮。の。さ。と。な。れ。る。と。い。ふ。因。果  
 觀。面。の。理。の。い。ひ。う。う。只。定。ま。ら。ぬ。人。に。盛。衰。の。な。れ。ど。弥。次  
 父。母。の。貧。乏。も。首。と。目。も。酒。の。貫。を。偷。り。う。う。已。が。口。腹。の。こ。を  
 肥。う。う。が。一。日。弥。次。背。門。は。五。出。さ。る。一。隻。の。鳥。何。や。ん。銜。と。来。り。

土のうらふ埋めかへぬ。つら。あ。や。冬。の。雪。も。さ。ら。れ。く。餅。を。造  
 ぐ。ん。秋。の。さ。ら。り。餅。を。貯。か。ま。り。冬。と。凌。ぐ。れ。計。を。う。う。事。鳥。獸。を  
 斯。の。い。く。う。の。家。の。實。の。子。も。あ。ら。ぬ。母。も。慈。め。ぬ。の。志。頑。め。れ。ば  
 終。つ。追。ひ。ぬ。れ。冬。の。鳥。の。餅。も。う。た。め。ぬ。ん。と。う。う。と。い。ふ。の。い  
 ま。ま。の。目。も。五。七。十。の。錢。を。偷。り。う。う。只。その。日。の。う。ら。ふ。け。し。損。く。一。錢  
 も。貯。め。る。と。う。う。が。く。う。う。の。れ。な。残。か。た。く。鳥。計。お。做。さ。り。と  
 深。念。この。目。も。偷。む。と。う。れ。錢。と。一。錢。も。費。さ。り。と。う。う。山。は。ふ  
 瘞。や。さ。ぬ。え。り。弥。次。の。り。う。う。店。も。あ。ら。ぬ。酒。を。賣。る。の。價。を。高。く  
 の。内。も。投。入。さ。る。お。の。づ。う。手。煉。し。う。篇。より。外。一。錢。と。う。れ。散。り。さ。ら。ぬ  
 十。文。の。錢。を。投。入。し。時。の。五。文。の。手。の。中。小。残。と。う。う。と。い。ふ。放。下  
 備。の。力。も。弄。び。う。う。人。の。眼。を。欺。く。う。う。速。さ。れ。六。郎。二。も。彼。が。小。錢。を



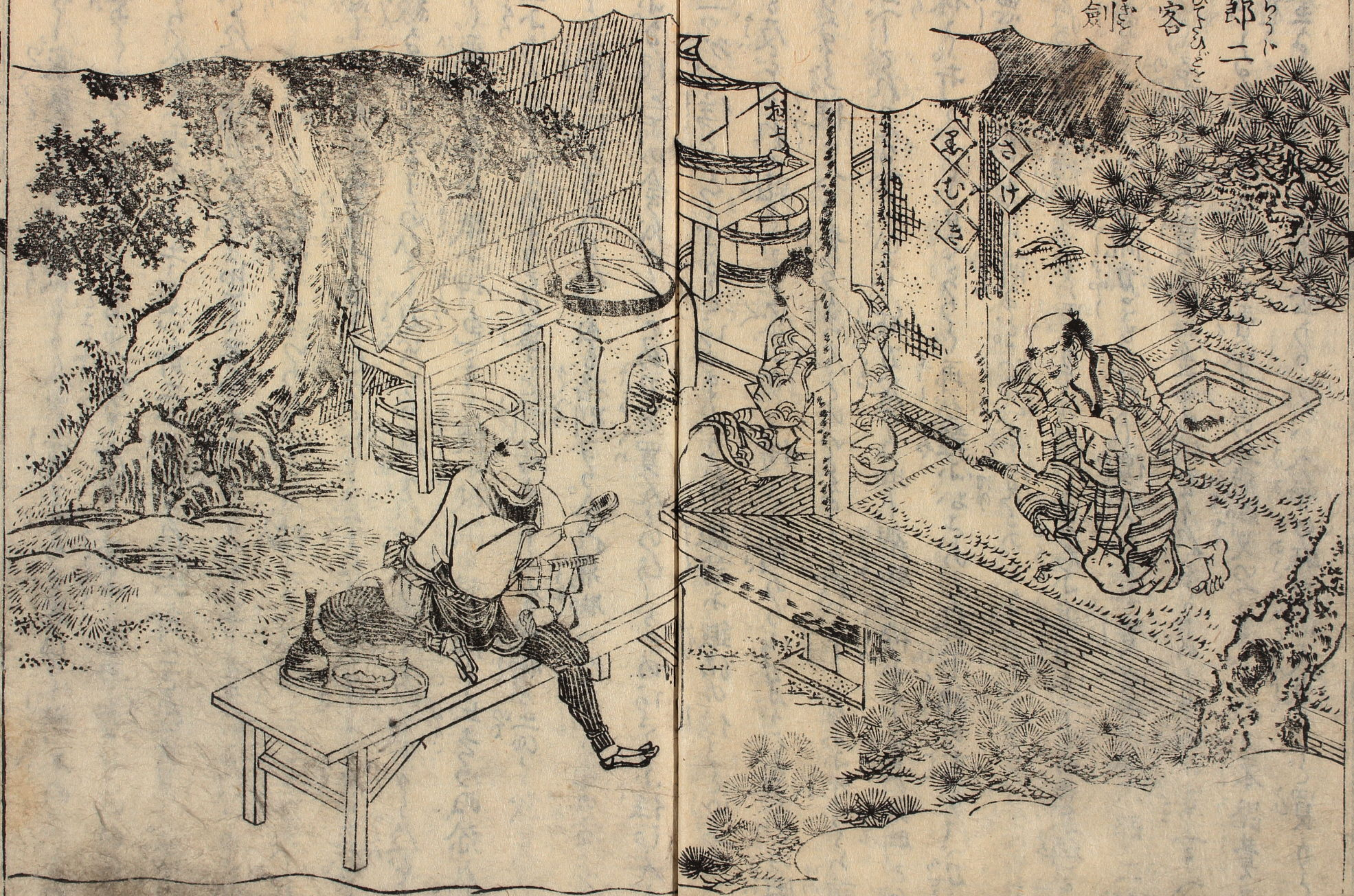








六郎二  
誘客  
賣劍  
圖









路に貴せぬとてさうぢやなう。前の金瓜さうぢや六郎二もさうぢや  
 東をさうぢや走らうめ。六郎二いゆるるく三両の金瓜得んか。うらむび  
 ぢや紙を打むぢや。その金瓜見ら。前の金瓜あゝとて。鐵の鉄の鉄  
 三つ四つ色おれなれ。こいゆあゝと劇騒だ。さうぢや渠奴小誰もさうぢや。ゆか追  
 ほきさうぢや引さうぢやあゝ人。榎木の店成成。弥成も来れと焦燥。已果走ら  
 さうぢやんとさうぢや時。弥成がゆさうぢやこれさうぢや東路二條あれ。父は街道に追ゆ  
 多。これ南の徑を尋べとひ捨。父より先小走ら出さ。六郎二も後さ  
 東の街を追蒐さうぢや。この時弥成は南の山路を。五七町走らゆけ。彼飛脚  
 木をうたれ。この小望羊と。弥成が来ぬ。待さぬさうぢや。弥成やさうぢや  
 小走らつた。生馬の眼も脱得ま。これさうぢや父も。流石が京談さうぢや。欺  
 せらうと。打笑のさうぢや。これと貴とれ。彼男もさうぢや。不可と笑ひて。件乃

刀次さうぢや。豫に約束ハ七両さうぢや。向小流身より領うら。金二両あり  
 今四両をさうぢや。あひさうぢや。刀次弥成小違ぬ。弥成これ公受ら。さうぢや  
 寝美成得ん。とひひも。詠を抜打。ちの男を切せ。あゝの刀  
 長二尺。さうぢや。とひひ。利と鑢邪。異さうぢや。これ。その體忽ら二両さうぢや  
 け。ゆさうぢや。弥成昔念と笑ひ。さうぢや。さうぢや。刀の血を拭ひ。刀次ハ根小  
 さうぢや。埋おれ。彼が懐中を探ら。三両の金瓜も奪ひ。死骸を谷に蹴  
 地さうぢや。あゝが家路。さうぢや。抑今弥成は。切害せ。これ。男の各を  
 八郎五郎とひひ。美濃國荒崎の光棍さうぢや。おほく賭。輸と彼國  
 と。亡命。近曾。この岐岨路。不素。野伏とるれ。彼え。ち。辨。候  
 の癖者。さうぢや。人。弥成。つ。の。程。さうぢや。空。出。り。ん。これ。相。謀。り。飛。脚。み  
 扮。せ。遂。六。郎。二。と。詔。り。又。八。郎。五。郎。と。も。夥。れ。殺。し。己。一。錢。を。書。さ。ん



彌次棄劍  
殺八郎五  
郎圖





容易刀を棄てりぬ。又八郎五郎が六郎二ふんせり。三両の金  
 弥次が日毎酒の貫を偷く。埋められしをありきり。かゝる弥次の素子  
 たるさめ。家小ふえれば。六郎二の先は帰る居る。いづく顛倒めと  
 又さく。膝のあつちを搦傷血のまね知る。椀本小扱せあぐ。弥次も又尋  
 逢むと聞く。只管うしく憤ま。弥次も共つ。嘆息。彼飛脚二翼八足  
 やありらん。終ふその影ふる。縦ひ今日捕逃め。彼國中よあ。さ  
 るん。やその性方なれざる。夏いあじ。さのこん。瓜房あある。言は巧よ  
 しくこれな欺け。椀本も又夫を寛つ。その白も徒暮。いれ六郎二の  
 この後まもしく。窮してせん。さるさ。高ひも打やめ。弥次と人。傭せし  
 馬込牽せ。薪を推つ。せむとせれども。弥次の勉。その。瓜房もさ。既ふ  
 一己の志。瓜とんと。さひ定め。それ。ある時。樹の登。水小戯。又ある時。里乃

仕夜をありめ。角觥の勝負。瓜試る。天性。まれ得る。ふや。力量。早抜  
 万人小勝。も。学。として。把勢。撃。剣。水。戯。ま。自然。と。その。妙。と。極。ぬ。さ。り  
 き。ども。父母。か。ふ。り。一。の。夏。瓜。匿。一。の。二年。あ。まり。道。一。り。あ。ふ。又  
 六郎二が女見。深雪。の。その。心。ぶ。ぬ。父。小。似。も。顔。色。十。分。の。媚。あり。て。膚。の  
 御嶽の雪。より。白く。筑摩の温泉。より。清。ら。る。れ。が。それ。瓜。見。る。の。會。地。の  
 國守。瓜。く。く。あ。ひ。その。あ。川の。水。ま。く。く。渡。り。ひ。く。る。を。う。ら。ら。傳。人。公。采  
 て。浅。間。の。山。れ。煙。と。り。小。船。を。こ。ぐ。御。坂。の。小。篠。原。より。も。袖。を。る。露  
 う。く。ると。さ。ひ。瓜。速。情。を。運。び。或。の。勿。心。卒。は。媒。し。て。父母。母。告。る。も。あ。ま。こ  
 六郎二のさく。言。入。を。婿。と。も。さ。く。衰。る。家。瓜。さ。く。び。真。ん。を。思。ひ  
 め。れ。ば。更。さ。れ。と。承。引。む。椀。本。の。又。さ。め。より。深。雪。と。六。郎。二。の。妻。あり。て  
 ぐ。く。さ。ひ。瓜。の。り。け。る。れ。さ。り。り。弥。次。の。妻。が。夫。を。眠。く。せ。と



のひ教しを互ふぶらり。氣小見えつるが。深雪もいづらふまふらひは死  
 ころん。弥次いぢちち相語く。仮即お松まづぐりありいぢち契浅くは  
 ちりめ榎木もさぐりこれとちりめさぐりちりちり夫も告ぐ。まこと  
 の夫婦とちりてなれ下ろろあれが。あゝど顔あく見ゆり。あゝれよ  
 六郎二のいめる年。命細もさあさつる。かどと誰りこれ。又頼とあろの  
 深雪のころり。彼今茲二八の春瓜むえれば富る家お縁や。りあろ。  
 くれりその庇家蒙るどん老木お花の咲このトと。折く親れた友ごらお  
 ちりち。女児が支ん頼とるふ長野の御の里長小田畑居多持つてはれ  
 の色好とるるが深雪とさぼのふ。い。官妾おせんと言はる。ちり彼処。  
 給事とせありぬこのひ。この媒かさるりけあま六郎二ひさりり  
 ちりち。かぐ。媒さるりふその家お到と。おの支を議とれお。緯速  
 ちのひ。ちりち。深雪が衣服の料とる。金百両と受りぬ六郎一ハ  
 只是轍魚の水を得とる。ちりち。その家お走。出道とる。ちりち。ちりち。  
 くれり。支ん榎木お生只。彼又これを柱。加之近曾深雪と弥次が  
 形勢とちりち。人の中。ちりち。深雪がうけ引とる。ちりち。あまが  
 ちりち。量とる。ちりち。彼おま。ちりち。告とる。その家。ちりち。迎の轎の未とれ  
 時。俄頃。送。遣。ちりち。と。深念。ちりち。家。ちりち。帰。ちりち。これと告とる。ちりち。  
 弥次いぢちち。聞。ちりち。ん。その夕。深雪。北。月。お。ちりち。ちりち。ちりち。  
 物がちりち。親の意。ちりち。従。ちりち。や。ちりち。心。定。ちりち。回。答  
 ちりち。憤。と。會。ちりち。聞。ちりち。深雪。ちりち。ちりち。この度。と。ちりち。ちりち。  
 ちりち。涙。ちりち。ちりち。ちりち。頭。と。ちりち。ちりち。聞。ちりち。人の。仰  
 ちりち。ちりち。遇。押。ちりち。ちりち。生。ちりち。ちりち。家。ちりち。住。ちりち。死。ちりち。ちりち。思。ひ



定の儀のつれ殊さうつらけられたる二親のひ名付けあひある妹夫乃  
中引列参り。かろ歎れを見せん。父は思ひあふとも母はさ押ひ  
ぬきし。この言えも実とも覺はしむどこのか。弥次郎は声な低し。あ  
清牙が衣服の料も。彼家より金子百両を得。父が那蒔の下子秘あ  
あふを。それくちらの。清牙の。これに従人ともあふ。彼金と盗と申す。  
りろとりふこの家と逃。このあふ。都下情く登り。その金なり。生涯  
安く暮さん。豈わくこふあり。貧不迫。あふ。事も  
まげふ私語。深雪の年まで。これ。稟性。利。これ。金  
目く沈吟。縦ひ親の強顔も。子と。告。奔。その金  
偷。老。父母。苦。増。めん。い。飛。別  
計。あ。再。深。念。の。弥。次。郎。の。魚。の。あ。り。と。

一錢も帯。この家。去。人。ふ。こ。も。こ。ひ。果。こ。う。ま。ま。  
かろひ。な。れ。心。ご。ぬ。少。く。い。あ。ま。の。い。う。べ。し。く。清。月。の。望。あ。も  
迎人の来るを。まら。彼家。ふ。父。か。ま。せ。富。人。の。夜。櫻。の。つ。れ。と。ま。や  
衣。小。白。ひ。と。ま。浮。世。の。春。あ。ひ。の。ま。れ。の。覺。朝。寤。と。あ。ひ。ん。の。ゆ。も。是  
う。ま。ら。と。と。ひ。切。る。氣。色。あ。く。己。別。と。ま。ん。と。と。を。深。雪。の。作  
裳。小。纏。り。こ。の。心。と。た。ゆ。の。志。あ。ひ。そ。従。ふ。ま。ま。の。あ。あ。の。あ。の。女。の。せ。ま。れ  
ん。清。牙。あ。ふ。と。あ。ふ。と。い。う。れ。恨。を。う。つ。る。ま。と。一。声。高。く。泣  
あ。と。あ。弥。次。郎。の。油。の。く。く。の。口。か。掩。ひ。声。高。く。人。や。き。く。清。牙。既。小  
ま。ら。定。ま。ん。父。母。の。睡。を。窺。ひ。り。彼。金。と。偷。半。背。門。口。より。奔。り  
あ。の。れ。い。甲。夜。より。家。と。お。那。須。沢。橋。を。待。べ。れ。こ。ろ。臆。し。く  
怪。め。ら。れ。こ。ろ。子。持。母。の。声。く。深。雪。く。と。あ。ひ。入。ら。れ。バ。二。人。の

川谷異録 卷之三 一



るは言伝ことばにのこし遂に内外うちとふられり。弥次やじの夜よさる。皆みな價あて坂さかままりて。  
 翌あすの生活あひらと聞き来きる。中なにありて。鎖さして夜よを過とす。母はは告つぐ甲夜よひ  
 より家いへにい出でる。埋うむる刀やいばと金かね錢せんと堀ほりて。むむろろふ行い装せうとささる  
 の二更ふたごももくくろろより。那須なす沢さわ橋はしの上うへふふる。りりり深こ雪ゆきが音ねづづきか  
 みる。深こ雪ゆきの暗あん号ごうがささと下くだと。ささるるももふふももざざれれど。ほほももおおききもも生な平へれ  
 びく父母ふぼのらりのふふ寝ねる。その睡ねまるもも寤あるる父ちちが卧ふ蓆しきと探たづねねり見みれば。  
 思おもひひく一ひと包つづの金かねが賊さく布ふに納いれれて匿かくれれたたらら。おおれれもも心こゆゆりりて。  
 裏うらら胸むねに押お鎖さををもも。肘ひじのうららのうららとと揮うらら。ややややとと偷ぬすす。廁つう小  
 ゆゆくくのうらら背せ門かどにに立たちち出でる。西にしををももとと揮うらら。頃ころのうらら月つき廿にじふ日ひのうらら  
 のうららるるふふ。亥ひ中ちゆうの月山げつざんの際きわよよとと登のぼりり。白昼まひるのうらら明あるる風かぜにに戦たたか  
 櫓うらの蔭かげもも父母ふぼの追おひひままるるとと駭おどれれ裳もりりふふ蹴きくく。彼かの橋はしららく来きぬぬ時とき。  
 弥次やじへ遙とほふふら望のぞみみくく。竊ひそかかにに歡よろこびび。再また一ひと層そうの惡念あくねんををままりりととふふややりり。ささ色  
 丁ちやうびびのち地ぢをを去さるる。天あまををりりとと屋や峯ねとと區く。地ちと以よ牀しやうととるる。四し海かいは横よこ行ぎやう  
 せんせんととふふ。又また一ひと女によのを小こ羈かりりてて生涯しやうが區くとと終とんんとと。大おほ丈夫しやうぶの耻はぢ  
 べべたたととらら。人ひととと毒どくををぬぬへへ男おとこ子こふふああるるとといいふふととらら。今いま彼かをを認しんりりとと  
 身みが脱だまま。手て足あしををかかるるととままりりててままりりのれををととゆゆりりととらら。橋はしのうらら望のぞみみ  
 居いるるふふ。深こ雪ゆきのうらら初はつももちちととままりりてて。やや傍そばににままりりのれ。息いきももつつれれ敢あててととららく  
 の物ものががりりてて。彼か金かねがが流ながるるのれ。弥次やじのれをを懐かこみみ拵しなてて。二ふた人にん齊いっにに橋はしををととらら  
 既すで小こ中ちゆう程りやうままりり到いたりり。時とき。弥次やじ忽たちちち潜かづ然ぜんととてて歎なげれれるる。深こ雪ゆきのうらら驚おどろろけけ  
 その故ゆゑをを問とふふ。弥次やじががいいととくく。男おとこ女によのうらら愛あい慾よくををととままりりてて。一ひと旦たんのうららいいととらら  
 つつととどど。熟じゆくかりりひひめめががららととせせらら。これこのうらら女によのうらら身みがが親おやにに表あははまま。今いま  
 十六年じゅうろくにんねんのうらら高こう恩おんがが承うけららるる。一ひと日にちのうらら孝こうとともも竭つきすす。却かへりり身みををもも子こ孝こうの

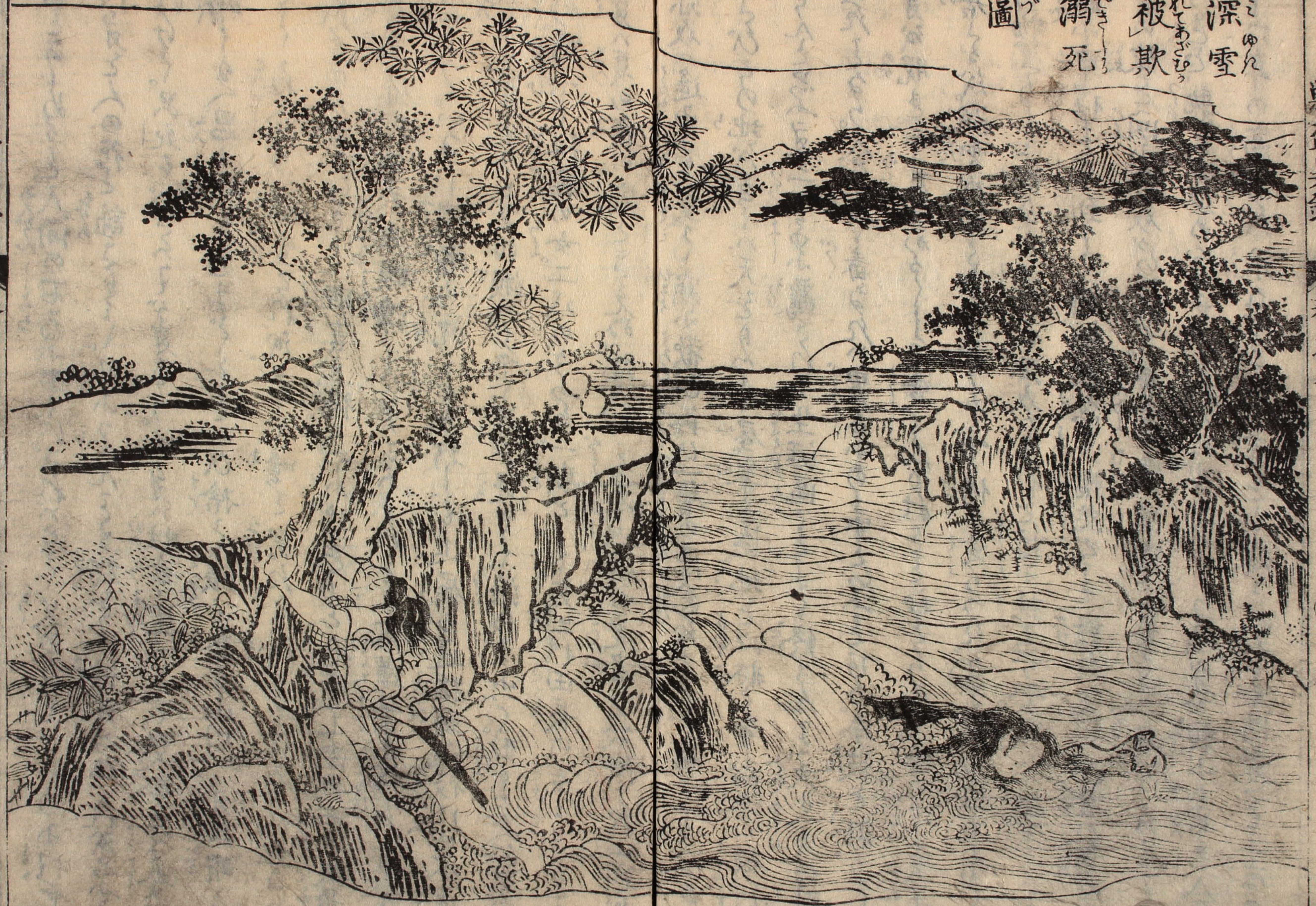
川谷異録

卷之三

十七



深雪被欺溺死圖





子とありぬること。人間の面をふあはだ。されどよく父のるもさうりお任せ。  
 清く人を花と誣さるる。外ふらんとも巧き。彼がひこれかふふ  
 けけ。只死すべきふりしがあなり。清く性命定う。父母も孝を養を  
 竭し。思も情も是まぐとといひ捨て。張て落る山川。清く踏ら  
 せ。飛入ら。深雪これかふく。啼と哭れ。浅き。弥及どめ。死まふ  
 け。言も偽り。やハ後ま。と合堂。南無西方無量  
 壽光。弥陀如來。本願。濁し。らび。これをも。一蓮葉。小僧。死まふと  
 念下つ。あ。淵瀬。小沈。ころ。お。も。近属の送梅。雨。小枝。川の水。落  
 合。常。下り。も。る。海。瀬。を。や。く。石。小。逆。ま。く。浪。の。ま。ふ。く。形。も。ら。ん。ふ。は。れ  
 け。憐。べ。紅。顔。の。女。二。八。の。く。あ。か。一。期。と。て。死。せ。れ。田。長。の。声。と。り。み。め  
 夏。の。夜。の。霜。と。さ。え。ぬ。弥。及。の。え。来。水。戯。の。達。者。を。れ。險。死。山。川。か

変るもせど。抜手。か。切。く。涙。が。か。深。雪。が。死。骸。の。流。る。か。ん。く。遙。の。川  
 下。り。上。り。河。原。ふ。ら。く。も。ら。ぶ。小。濡。さ。れ。衣。服。を。絞。り。一。声。呵。と。打  
 笑。ひ。く。遂。ふ。の。地。を。さ。ら。去。り。嗚。呼。彼。六。部。二。む。一。節。折。が。百。金  
 を。掠。奪。り。橋。平。公。教。し。れ。天。罰。を。小。報。ひ。ま。く。今。弥。及。が。る。小  
 百。金。を。偷。ま。く。深。雪。も。又。枉。死。し。ぬ。夫。天。綱。ハ。疎。め。て。漏。さ。び。六。部。二。が  
 終。了。と。さ。り。如何。あ。ん。次。の。巻。を。開。く。因果。の。道。理。を。と。ら。れ。る。

四天王剽盜異録卷之三畢



